

わがまち再発見!!

対馬市教育委員会 文化財課
0920(54)2341

糠嶽の合戦(応永の外寇)

糠嶽の合戦は、対馬を攻撃した朝鮮軍が仁位を制圧するため、上陸を敢行しようとした戦いです。

「宗氏家譜」には、応永26年(西暦1419年)に朝鮮軍来寇について、具体的に記されています。

「応永26年己亥、朝鮮の将李従茂、戦艦270艘、兵1万7千185人を率い、対州与良郡浅尾浦に至る。州兵之を破る。朝鮮兵狼狽して海浜に走り、船に乗る。貞茂海人を使つて火を放たしめ、以て賊の船を焼く。斉藤・立石等兵を発して之を撃ち、賊兵大いに潰れて帰る。我兵戦死者123人、賊を斬ること2千500余級」

このように、日時や敵將の

氏名、兵力まで詳しく知っているのは、「宗氏家譜」の撰者が朝鮮書を読み資料としたためだと言えます。反面、宗貞茂が州兵を率いて、防衛の陣頭に立ったとしているのは大変な誤りであり、彼がこの戦いの前年病死していたことが、「李朝実録」に記されています。

貞茂でないならば、我が軍の采配はだれが振るっていたのでしょうか。記録では、九州探題波川義俊、宗氏の主家小式満貞など九州の諸豪が応援に來たとあります。小式満貞は幕府へ「江南の兵戦1000隻、朝鮮の兵船300隻の来寇を、力戦し撃壊したり」と述べています。

一方、朝鮮側の記録では軍は「尼老郡(仁位郡)に至り三軍に令し、道を分つて陸に

下り、一戦を欲して左右の軍を督励す。左軍節制使朴実、賊と遭遇す。賊は險に抛りて伏兵を設け、以て之を待つ。朴実の士ら高所に登り、戦わんとするや、突如前に伏兵現れ、我が師敗績。(以後略)」

とあり、中軍は遂に上陸出来なかつたとあります。

豊玉町糠の奥から卯麦に越える古い山道の峠にある「殿様壇」は、貞茂が糠嶽で戦死し、その墓とされていますが、そうではありません。

仁位郡主の誰か、若しくはこの合戦で戦死した将士の供養の塚を殿様の墓と言うようになったのか、謎は明らかになっています。(参照 豊玉町誌・対馬国志)

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

4月の休館日

休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

●「行方不明本」大量発生中!

蔵書点検をおこなったところ「行方が不明な本」がたくさんありました。ご家庭で見つかった場合は、速やかにご返却ください。

●読んだ本を置く「ブックトラック」を設置しました。

どの棚に戻してよいか分からなくなった場合は、緑色のブックトラックに載せて下さい。ブックトラックに載せていただければスタッフがお手伝いいたします。

今月のおすすめ新着本

一般書	『目は1分でよくなる!』 今野 清志/監 血流を促し、酸素を取り入れれば、目のトラブルは9割改善する! 誰でも簡単にできて、視力改善が期待できる「7つの視力回復トレーニング」を紹介します。	『教 場』 長岡 弘樹/著 「君には、警察学校を辞めてもらう」この教官に睨まれたら終わりだ。全部見抜かれる。誰も逃げられない。何もかもが新しい“警察学校”小説。	『日本よ、世界の真ん中で咲き誇れ』 安倍 晋三・百田 尚樹/著 取り戻すべき日本とは何か。安倍総理大臣と小説家・百田尚樹が日本について語り合った対談ほか、安倍晋三論や、安倍総理大臣が語った熱き想いなどを収録。
	『わさびちゃんとひまわりの季節』 たざわ りいこ/著 大怪我を負った、子猫。「わさびちゃん」、周囲の人々の看護で回復し、成長していきますが…。たったひと夏だけ、生きた子猫と、とある家族の愛の実話。	『せかいでいちばんつよい国』 デビッド・マッキー/著 自分たちの国ほど素敵なものはない、大統領はいろんな国へ戦争をしにいきました。「我々が世界中を征服すれば…」強者の歪んだ論理をユーモアを交えて描く。	『親子で読みたい70人のおはなし』 よだ ひでき/著 マザー・テレサ、坂本龍馬、孔子…。日本と世界の偉人70人を取り上げ、それぞれの生涯をまんがで紹介する。